

Shin

2023.12
vol. **23**

特集

伝えるためのユニバーサルデザインフェア ～色・文字・かたちでみんなに分かりやすく～ 〈MUDフェア リポート **前編**〉

CSR 認定企業紹介

トキワ印刷

将来も選ばれ続ける企業を目指して
CSR の旗振り役が実践する社会貢献

CSR トピックス

国連、温室効果ガス削減目標達成へ厳しい分析
内閣府、障害者差別解消法に係る説明会を全国で実施
こども家庭庁、こどもの貧困対策など基本方針案まとめる
東京都、デフリンピックに向け言語を見える化するカフェ
日印産連、2023 GP 環境大賞表彰式を開催
電通、発達障害の特性を基に課題発見支援ツールを開発
味の素 AGF、退職した元社員を再雇用する新制度
甲州タクシー、軽自動車 EV タクシーの運行を開始
鎌倉・材木座でコンポストを通じた地域交流の試み



全日本印刷工業組合連合会



特集

伝えるためのユニバーサルデザインフェア

色・文字・かたちで みんなに分かりやすく

〈MUDフェアリポート 前編〉

全印工連では、情報伝達の担い手として、約20年前からセミナーやデザインコンペの開催などメディアユニバーサルデザイン（MUD）に取り組んできました。MUDは、2007年度から全印工連の正式な活動となり、2008年1月には特定非営利活動法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会（MUD協会）が設立され、今年設立15周年を迎えました。

MUD協会設立15年目の節目となる本年、誰もが情報にアクセスしやすい社会の実現をさらに後押しすべく、2023年8月18日から20日までの3日間、「伝えるためのユニバーサルデザインフェア『色・文字・かたちでみんなに分かりやすく』」（以下MUDフェアとします）を全印工連とMUD協会の共同主催により開催しました。今回はMUDフェアのリポート前編をお送りします。

MUDフェア初開催！

MUDフェアは、旧芝離宮恩賜庭園の向かいにある東京都立産業貿易センター浜松町館において、入場無料のイベントとして2023年8月18日から20日の3日間にわたり開催されました。連日続く猛暑にも関わらず、1250名（主

催者発表）の方が来場し、盛況のうちに終了しました。

本イベントは、高齢者・障がい者・色覚障がい者など、誰もが使いやすい見やすいメディアを提供するMUDのさらなる深化を図るため、セミナープログラム・展示コーナー・体験コーナーの3つの企画を柱に、最新の知識や技術を

特集◎伝えるためのユニバーサルデザインフェア ～色・文字・かたちでみんなに分かりやすく～ 〈MUD フェア リポート 前編〉



MUD協会による「MUDを知る」展示

共有し学び合い、情報交換により広くMUDを認知してもらうとともに、中小印刷業界全体の技術力向上を目指して今回初めて開催された。

多様な角度からMUDを見つめ直す

MUDフェアはセミナープログラム・展示コーナー・体験コーナーの3つの企画を中心に開催されました。セミナープログラムでは会期中に12本の特別セミナーが開講され、メインセミナーとして視覚障がいを持つ経営者兼コンサルタントの成澤俊輔氏が、印刷業界がこれからMUDに取り組むべき姿勢について熱弁しました。

展示コーナーでは「MUDを見る・触れる」をテーマに、MUD協会や企業、行政によるMUDの事例や取り組みを紹介すると共に、MUD認証製品やコンペティション受賞作品の展示が行われました。また、体験コーナーでは「MUDを感じる」をテーマに、小学校低学年以上から参加できる点字による名刺作成など、実際に情報アクセシビリティやMUDの技術や製品を試すことができるワークショップが開催されました。

MUDを知り、学ぶ必要性の高まり

メインとなる展示コーナーは、広々とした産業貿易センター4階南展示室に展開されました。「MUDを見る・触れる」をテーマにした展示コーナーは、「MUDを知る」「学びのMUD」「命を守るMUD」「くらしの中のMUD」と4つのセクションで構成され、MUD協会や印刷会社、出版社等によるパネル展示が行われたほか、全印工連によるメディア・ユニバーサルコンペティションの過去の受賞作品の紹介など、UD関連団体による展示も行われました。

MUD協会による「MUDを知る」セクションには、白内障や弱視の方にデザインがどう見えるのか確認することができるロービジョン体験眼鏡が置かれ、実際に着用することができました。筆者も色覚障がいを体験できる眼鏡を掛けさせてもらい、色分けされた絵や図であつても見分けづらいことや、白内障を体験できる眼

鏡を着用し、フォントによってつぶれて見えづらいフォントと見えやすいフォントがあることを体感することができ、MUDの重要性を改めて認識しました。

「学びのMUD」セクションでは、子どもの学習にフォークラス。MUDを取り入れた教科書や学習キット、UDデジタル教科書体についての展示がなされました。

インクルーシブ教育の実現を目指し、色覚に配慮した配色やUDフォントを使用した株式会社新興出版社啓林館の小・中学校の教科書は、実物が展示されており、実際に手に取って見ることができました。筆者が二十年以上前に使っていた教科書と比べると、カラフルで図表が多く使われ、格段に分かりやすくなっている印象を受けました。啓林館の小学校の教科書は、教科書で初めてMUD認証を取得しています。

東京書籍株式会社は、MUDの視点で開発されたWebアプリ教材「コグトレオンライン」の解説パネルを展示。「コグトレオンライン」は、学びの土台となる認知機能を強化できるトレーニングツールで、学びに困難を感じている子どもを含むすべての子どもたちの「学ぶ権利」を保障するため、MUDだけでなくナレーショ



学びのMUDコーナー 啓林館の展示

特集●伝えるためのユニバーサルデザインフェア ～色・文字・かたちでみんなに分かりやすく～ (MUD フェア リポート 前編)

大阪シーリング印刷株式会社
「避難所設営シールセット」



ンなど音声も配慮された教材となつています。

「命を守るMUD」セクションでは、地震など災害対策に活用されているMUDの実例として、緊急時の公衆電話の使い方や海抜表示プレート

ト、MUDに配慮した洪水ハザードマップなどが紹介されました。

特に目を引いたのは、大阪シーリング印刷株式会社の「避難所設営シールセット」です。「避難所設営シールセット」は、避難所を設営する際に便利な備品や各施設を案内するPOPやシール・テープがセットになったもの。実際に2016年の熊本地震や、2018年の大阪府北部地震での指定避難所で利用されたそうです。避難所というお年寄りから子ども、身体障がい者や日本語が理解できない外国人など、様々な人が集まる場所では特にMUDへの配慮が必要で、災害が多い日本ならではの備えと言えます。

「くらしの中のMUD」セクションでは、地下鉄マップやタッチパネル、イワタUDフォンなど、多くの人に情報が伝わりやすいような生活の中で利用されているMUDを再発見できま

した。

UD関連団体による展示セクションでは、メディア・ユニバーサルコンペティション第1回から第16回までの受賞作品の展示が行われたほか、カラーユニバーサル検定やMUD検定についての説明もあり、MUDの理解をさらに深めたい人にも役立つ情報が得られるようになっていました。

ダイバーシティで重要性が増すMUD

MUDフェアでは8月18日から20日の3日間にかけて、1日4本、計12本の充実したセミナープログラムが実施されました。18日・19日のセミナープログラムは、産業貿易センター4階第3会議室にて講演会方式で行われました。

初日にあたる8月18日は、一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(UCDA)常任理事・事務局長の三村一夫氏の「お客様に『わかりやすい』情報発信をするために」のセミナーを皮切りに、成澤俊輔氏によるメインセミナー、株式会社大川印刷代表取締役で神奈川県印刷工業組合副理事長の大川哲郎氏によるSDGsの視点から注目されるMUD事例についてのセミナー、MUD協会理事も務める株式会社イワタ取締役の阿部浩之氏によるMUD施設認証の実例を解説するセミナーが実施されました。

メインセミナーに登壇した成澤俊輔氏は

1985年佐賀県生まれ。「世界一明るい視覚障がい者」というキャッチコピーを掲げて、経営者兼コンサルタントとして活動されています。今回は「印刷業界がSDGsやMUDをどうやって捉え直していくのか」というテーマで、ご自身が世界各国の70社以上とコンサルティングを重ねた経験を、満席の聴衆の前に生き生きと語られました。成澤氏は「目が見えなくてよかった。なぜなら目に入ってくる情報に振り回されず主観的に生きられるから」と話し、「MUDでもSDGsでも、得意なことより好きなことをやって下さい。人は強みで必要とされ、弱さで愛されます。『好き』と『弱さ』がこれからの支えになるでしょう」と印刷業界にエールを送りました。



「世界一明るい視覚障がい者」が
キャッチコピーの成澤俊輔氏

MUDアドバイザー検定の活かし方

MUDフェア開催2日目の8月19日には、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構

CUDO 副理事長であり、ご自身も色弱でありながら1級カラーコーディネータを取得した伊賀公一氏による色覚とカラーユニバーサルデザインについてのセミナー、MUD認証の審査も担当する株式会社マルワの額額伸太郎氏によるMUD配慮の技術的手法を解説するセミナーが実施されました。

続いて高知在住のフリーランスデザイナー、majima DESIGN の間嶋沙知氏による「私のMUDの取り組み方」「デザインの現場から」のセミナーが行われました。

間嶋氏は2019年に「より多くの人に情報を届けたい」との思いから、MUD教育検定（現MUDアドバイザー検定）を受講されたそうです。受講によって得られたMUDの知識を活かして、学習塾の成績表や高知県の子ども向け図書館のウェブサイトなどのデザインを行ったことをMUDの実践例として紹介されました。

また、「MUDを一人で実践するには限界がある」と高知でMUDの勉強会を開催したところ、スタッフ研修やセミナーなどに講師として



高知県からリモートでの講演
majima DESIGN の間嶋 沙知氏

の登壇の機会が増え、後々の書籍化に繋がった経験を活かされました。「ユニバーサルデザインは比較の考え方。工夫と改善を重ねることで、伝える人や可能性を高めていくもの」と講演を締め括りました。

間嶋氏は高知在住ということでオンラインでの登壇になりましたが、冒頭より耳が聞こえない人のためにパワーポイントの字幕機能を見られるなど、デザインを超えた配慮が見られました。間嶋氏のMUDについての著書『見えにくい、読みにくい「困った!」を解決するデザイン』は、マイナビ出版から刊行されています。

フロントから始めるMUD

同じく8月19日、株式会社モリサワのユーザーサポート部の高松玲奈氏による「フロントによる読み書き困難な方の改善から教育の課題を考察する」のセミナーも行われました。

モリサワといえば「モリサワフォント」でもお馴染みの、日本のフォント市場でトップシェアを誇る企業。日本で発達障害の可能性のある小中学生の割合は8・8%と言われており、読み書きの困難をフロントで解決できないかという観点から、フォントの基本的知識を解説すると共に、「UDデジタル教科書体」の開発の経緯について話されました。

UDデジタル教科書体は、日本で初めてユニバーサルデザインを取り入れた教科書体とし

て、2016年にモリサワがリリースした書体です。ロービジョンやディスレクシアに配慮したデザインで、開発からリリースまで8年も掛かった苦労や、UDデジタル教科書体でテストを行ったところ読む速度も正答率もアップしたとの調査結果から、多くの子どもにとって読みやすく、教育現場で扱いやすい書体であることが分かったことなどを語られました。

UDデジタル教科書体の開発経緯については、モリサワの書体デザイナー高田裕美氏の著書『奇跡のフォント教科書が読めない子どもを知ってーUDデジタル教科書体開発物語』（時事通信社）にも詳しく書かれています。



株式会社モリサワ
高松 玲奈氏の講演の模様

今回ご紹介した以外にも、多くのセミナープログラムが行われたMUDフェア。次号ではMUDフェアのレポート後編として、引き続きセミナーやパネルディスカッションの模様、体験コーナーでのワークショップについてお伝えします。

トキワ印刷株式会社

本社：大阪府東大阪市池島町8丁目6番32号 創業：昭和14年（設立昭和29年） 従業員：31名
代表者：渡辺貞城 認定取得：2021年12月（ワンスター） <https://www.tokwa-print.co.jp/>

将来も選ばれ続ける企業を目指して

CSRの旗振り役が実践する社会貢献

――まずトキワ印刷の事業内容と強みを教えてください。

渡辺貞城代表取締役社長 弊社は印刷の中でも商品パッケージをメインに印刷加工している会社で、コンビニやスーパーに並んでいる商品類のパッケージを製造しています。具体例を挙げますと、下着や肌着を生産するアパレルメーカーのグンゼさんのパンストのパッケージですね。あとはカミソリや調理器具関係といった、雑貨類の厚紙のパッケージの製造をメインに行っている会社です。最近で



トキワ印刷が得意とする
パッケージ印刷を使用した商品

は、ウェブサイトを通じて厚紙印刷通販事業を展開し、好評いただいております。また、脱プラの流れに乗った環境パッケージの提案にも力を入れております。

――CSRについてですが、2021年12月にワンスター認定を取得されました。取得を目指したきっかけは？

渡辺 弊社の取引先には上場企業など大手企業が多く、仕入先である弊社に対して、SDGsやCSR、環境問題への取り組み状況についてのヒアリングが増加しており、どう対応していけばいいか考えておりました。環境や労働安全などをスポットごとに聞かれるのなら、企業が取り組むべき社会的責任が網羅され、色々なものがパッケージされているCSR認定を取ればスタートしやすく、対外的にもわかりやすいのではと思

い、取得を目指したのが始まりになります。

CSR認定は、「これをやりなさい」というのが決まっていますよね。なので、それぞれ違うレギュレーションを採用している取引先に対し、「弊社はこれをやっています」と示せるのはメリットが大きいですね。

また、近年は環境面に対する要請が強くなり、特に温室効果ガスの排出の削減については、大手企業はサブライチエーションも含めて取り組まなければならぬため、我々としてもきちんと対応していくことが求められています。

――CSR認定のワンスターを取得したことで、効果やメリットなどを感じる場面はありましたか？

渡辺 CSR認定を取得したことが直接的な利益に繋がるわけではないですが、CSRに取り組むと、お客さ

んから選ばれる企業として生き残れるという点が大きいと考えています。

環境問題に敏感な企業や、様々な社会課題に対して問題意識のある企業が、CSRに積極的な会社を選んでくれる。そういうところがCSRに取り組みメリットだと私は考えています。逆に言うと、それらに対応していかないと、行く行くは仕事の受注を失う結果を招くことになるかもしれません。

――CSRへの取り組みを始めたことにより、社員の意識や社内環境に変化は表れましたか？

渡辺 省エネや地域清掃に取り組み始めたばかりの頃は、どうしても社員のなかでも半ばやらされているという態度が見られることもありましたが、しかし、取り組みを継続するうちに、クライアントの問題意識や課題を共有できるようになり、社員自



身にもやはりこういうことをしていかなければならないと課題に対する意識がどんどん芽生え、会社の中でも自主的な取り組みが出てきたので、そういうのは嬉しいなと思っていますね。小さなことですが、紙コップを止めてマイカップやマイグラスを利用したり、ごみの分別もきちつと行ったりするようになりました。

——週に1回、地域の清掃活動を行われているのですよね。どの辺りを清掃されているのですか？



週に1回の地域清掃の様子

渡辺 社屋の前の道路を100メートルほど掃除させていただいています。ご近所の方や、向かいにある病院の患者さんやスタッフの方に、「いつもありがとうございます」とお礼を言われたと社員が喜んで報告してくれますね。どうしてもトラックが出入りするなど、近隣の方にご迷惑をおかけすることもあるので、ご近所づきあいも含めて良い効果が生まれています。他には、印刷用紙の余り紙や切れ端を、福祉施設等へ定期的にお持ちする活

動をしています。お渡しした紙に絵を描いて送ってくれることもあり、結構喜んでもらえているようです。

——環境保護の観点から何か取り組みられていることはありますか？

渡辺 昨年（2022年）8月に、社屋の屋根の上に太陽光パネルを設置しました。弊社の電力の2割から3割程を太陽光発電で賄っています。まとまった額の投資が必要でしたが、大体5、6年で回収できる見込みです。ここ最近の光熱費の値上がりを見ると、環境にやさしいだけでなく、コスト面でも太陽光発電を導入してよかつたなと実感しています。

——電力の2割から3割賄えるというのはいきなりのことですね。

渡辺 弊社は元々大阪市内に本社があったのですが、2021年3月に現在の東大阪市の社屋へ移転しました。その際にせつかくの機会だからと様々な対策を行いました。照明を全てLEDに変更し、エアコンもすべて省エネタイプの最新のものを採用しました。そういった施策のひとつとして、太陽光発電を導入することになりました。加えて、今年の6月からは購入する電力も再生可能エネルギー100%の電力へ変更しましたので、現時点で弊社の電力は、太陽光発電と購入電力合わせて再生可

能エネルギー100%を達成している状況になります。



トキワ印刷社屋の屋根に設置された太陽光パネル

——素晴らしいですね。他にはどんな取り組みをされていますか。

渡辺 他にCSRに関わる取り組みとしては、コロナウィルスの影響で一時期中断していたのですが、障害者の方に向けた職業訓練の場の提供を行っています。発達障害を抱える学生や卒業生の方に2週間ほど弊社の工場に入らせていただいて、仕事とはどういうことか、製造業とはどういうものなのか、という経験をしてもらっています。

——社員の皆さんはどのように関わっていますか？

渡辺 CSRの取り組みを始めるときに、社内が集まって、自分たちになにができるかという話を皆でしました。募金箱を置こうとか、マイカップを持ってきたらどうかとか、せつかくだから地域清掃をした

らどうかといった従業員からの意見を集めて、できることからやってみよう。また、実際にCSR認定を取っている他社の方へお話を伺い、「これだったらうちでもできるよね」と従業員と共に選んで、他社の良い点を自社でも取り入れていくようにしました。

——社員の方のCSRに対するモチベーションを上げる試みはありますか？

渡辺 ピンポイントでモチベーションを上げる取り組みではないかもしれませんが、社内では「改善提案活動」を継続的に行っています。改善提案活動とは、月1回、各部署から改善案を上げてもらい、優秀な提案を表彰する試みです。提案の内容は、生産性の改善や品質の向上に限らず、CSRの活動に資するような提案についてもOKという形を採っておりまして、新たな取り組みを随時受け付けています。

——CSRの一環として、MUDアドバイザー検定を取得された社員の方がいらつしやるとお聞きしました。

渡辺 はい。制作スタッフの2名がMUDアドバイザー検定を取得しております。弊社の主力商品は商品パッケージですが、多くの商品が店頭

我々としても、お客さんに手に取ってもらえば、取引先の商品が売れる、商品が売れば我々のパッケージも売り上げが増えるということで、視

——特に商品パッケージだとMUDの観点は重要ですよ。ね。実際にお取引先にはどういったご提案をされていますか？

画資料を作成しまして、取引先の一部の部門だけではなく、すべての部門に情報を回覧してくださるようお願いし

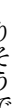
——今回資料としてご用意してくださった統合報告書、大変よくまとまっていてトキワ印刷のCSRやSDGsに対する取り組みが一覧できますね。

渡辺 はい、経営計画書と重複する箇所も多いですが、私が作成しました。先日、統合報告書の作成方法の

はCSR認定企業の社員でないと受
けられないセミナーだったんですね。
それを伝えると、CSR認定に興味
を持つてくださったのです。こうい
うコンテンツが動機となつて、CSR認
定を目指すのもきっかけのひとつとし
て良いのではないのでしょうか。

生が講師をされているのですね。CSRへの理解が一層深まりそうです。

● 全日本建設工業株式会社



限定

は年々高まっているのですが、作成できる人が少ない状況にあります。印刷会社が統合報告書を作成できる知

渡辺 先ほどの繰り返しになります
が、今、CSRやSDGs、ESGに
企業として取り組まないと、クライア
ントの取引企業の選択肢から外されて
しまうリスクがあります。少し言い方
としては消極的かもしれませんが、や
はり選ばれ続ける企業であるために
は、CSRは必須として取り組むべき
ものというのが私の考えです。

全印工連が主催するサステナビリティ
レポートや統合報告書の作成セミナー
(記載日程は既に終了しています)

避難所設営シールセット

避難所を設営する場合に便利なシールやPOPがひとつにまとめられたセットです。きれいにはがせるシールのため、設営・撤収がスムーズに行えます。

セット内容

- | | |
|---|--|
| ① スタッフシール
書き込める布製のシール
(内容量: 30 枚) | ② 立入禁止シール
危険なスペースを周知
(内容量: 10m×5巻) |
| ③ ごみ分別シール
ゴミの分別を明示
(内容量: 29枚巻き×3巻) | ④ ブランクシール
情報を自由に書き込める
(内容量: 29枚巻き×2巻) |
| ⑤ 案内シール
避難所の施設などを案内
ごみ置場、受付、トイレ、プランクの4種
(内容量: 計 30 枚) | ⑥ 蓄光シール
暗い場所での誘導用
(内容量: 48枚) |



販売元

内閣府認証 特定非営利活動法人

メディア・ユニバーサル・デザイン協会

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館 4F 全日本印刷工業組合連合会内
TEL 03-3552-3454 / FAX 03-3552-7727
e-mail info@media-ud.org



詳しくはこちらへ

製造元



大阪シーリング印刷株式会社

【東京営業部】 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 4F TEL (03)-3248-1759(代)
【大阪営業部】 大阪府大阪市天王寺区味原町13-21 OSP味原ビル TEL (06)-6763-6771(代)
【名古屋営業部】 愛知県名古屋市中村区太閤 3-1-18 名古屋KSビル5F TEL (052)-451-1561(代)
【営業拠点】 札幌・東北・北日本・福島・西東京・群馬・長野・さいたま・新潟・千葉・横浜・静岡・浜松・岐阜・京都・金沢・新大阪・南大阪・神戸・広島・岡山・米子・四国・松山・高知・福岡・北九州・熊本・鹿児島・沖縄



HPはこちらへ

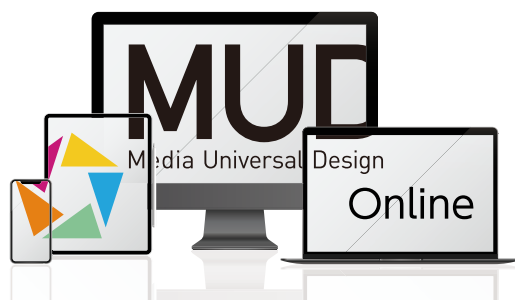
MUDの実践はまず、MUDアドバイザーから！ 自宅やオフィスから、いつでも受講・受験可能！

MUD オンライン
受講 & 受験

オフィス文書のユニバーサルデザイン講座

MUD アドバイザー検定

MUD 教育検定 3級アドバイザー
より名称変更



特定非営利活動法人 メディア・ユニバーサル・デザイン協会 (MUD協会) は、2021年2月1日より「オフィス文書のユニバーサルデザイン講座」「MUDアドバイザー検定」(旧MUD教育検定3級アドバイザー)をパソコン、スマートフォン、タブレットで受講・受験できる「オンライン受講・受験」をスタートしました。

お問い合わせ先



詳しい内容は
ウェブサイトで!!



内閣府認証 特定非営利活動法人

メディア・ユニバーサル・デザイン協会 事務局

〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館 4F 全日本印刷工業組合連合会内
ホームページ: <https://www.media-ud.org/>
E-MAIL: info@media-ud.org

国連、温室効果ガス削減 目標達成へ厳しい分析

国連気候変動枠組み条約事務局は11月14日に公表した報告書で、世界各国が策定した温室効果ガスの排出削減目標を達成しても、2030年時点の排出量は2019年比で2%減にとどまるとの分析を明らかにした。地球温暖化対策の枠組みである「パリ協定」では、産業革命前に比べて気温上昇を1.5度以内に抑えることを目標にしているが、その実現には2019年比で43%の削減が必要だと指摘した。目標と現実には大きな隔たりがある。

また、欧州連合（EU）の気象情報機関は11月8日、1月～10月の世界平均気温が1940年からの観測史上最高となり、2023年通年でも過去最高を記録することが確実だと発表した。

内閣府、障害者差別解消法に係る説明会を全国で実施

2024年4月1日からの改正障害者差別解消法の施行に向けて内閣府は、事業者に求められる取り組みや考え方についてのオンライン説明会を、11月に全国6ブロックで8回開催した。

改正障害者差別解消法では、企業およびボランティア団体や個人

事業主などを含めた事業者による合理的配慮※の提供が義務化される。これまで国や自治体には提供義務があったが、事業者にも適用されることになった。

車いす利用者用のスロープを店舗出入口に設置することや、筆記の困難な人が試験でデジタル機器の使用を求めた場合の対応などが例として挙げられる。

※合理的配慮：障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応することが求められるもの。

こども家庭庁、こどもの貧困対策など基本方針案まとめる

こども家庭庁の「こどもの貧困対策・ひとり親家庭支援部会」は今年9月、今後5年程度を見据えたこども施策の基本方針（中間整理）をまとめた。その中で、こどもの貧困対策に関しては、「全てのこども・若者が、家庭の経済状況にかかわらず、質の高い教育を受け、能力や可能性を最大限に伸ばせるようにする」ために、次のような方針を掲げた。

- 学校を地域に開かれたプラットフォームと位置付け、地域における関係機関・団体やスクール

ソーシャルワーカーが連携し、苦しい状況にあるこどもや若者を早期に把握し、支援につなげる体制を強化する。

● 将来の貧困の予防や、教育の機会均等を保障する観点から、幼児教育・保育の無償化、義務教育段階の就学援助、高校生・大学生等への修学支援により、切れ目のない教育費負担の軽減を図る。

そのほか、子育て当事者の相談支援の充実、居場所づくり、就労支援についても重要課題としている。

東京都、デフリンピックに向け言語を見える化するカフェ

2年後の2025年11月15日～26日、聴覚障害者の国際スポーツ大会であるデフリンピックが日本で初めて開催される。デフリンピックへの関心を高めていくため東京都は、デジタル技術を活用して言語を見える化し、きこえる・きこえないに関わらず誰もがつながることができるコンセプトカフェ「みるカフェ」を、大会開催期間に合わせた11月15日～26日の期間限定で原宿に開いた。

「みるカフェ」では、入店から注文、スタッフとの交流、会計まで、デジタル技術を活用し、聴覚障害のあるスタッフと円滑なコミュニケーション

ケーションを図る工夫をした。音声またはキーボードで入力した内容を透明ディスプレイに表示できる技術（TOPPANホールディングスほか）、スマートフォンのタブレット上で音声のテキスト変換と手書き文字の表示が可能

な技術、手話をテキストに変換する技術などのデジタル技術が活用された。

また店内では、手話をモチーフにしたポップアートの展示や、過去のデフリンピック映像の放映、手話絵本の展示などを行い、デフの世界に触れるきっかけとなる情報を発信した。

日印産連、2023GP環境大賞表彰式を開催

一般社団法人日本印刷産業連合会は10月18日、2023GP環境大賞等表彰式を東京・市谷のDNP左内町ビル・ホールで開催した。グリーンプリンティング（GP）認定制度の2023年度GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞の受賞者を表彰した。

GP認定制度を深く理解し積極的に活用している企業や団体に贈られるGP環境大賞は、大賞4者（あいおいニッセイ同和損害保険、東武鉄道、日本航空、あわしま堂）と準大賞8者、特別賞1者に贈ら

れた。

G P 環境大賞の受賞者を代表して謝辞を述べた日本航空の岩本正治商品・サービス開発部部長は「紙に関しては、機内食メニューの一部を、G P 認定を取得している印刷会社に頼んでいる。機内誌はほとんどF S C 森林認証紙を使っているが、まだG P マークは付いていない。今回の受賞は、もつとしっかりやれということかと思う。宿題をいただいた気持ちだ」と思いを語った。

電通、発達障害の特性を基に課題発見支援ツールを開発

電通ダイバーシティ・ラボと電通メディアカルコミュニケーションズは、発達障害の悩みを抱える家族を対象にした調査結果をもとに、子どもとその保護者の視点の違いを可視化した課題発見支援ツール「G A P M I K K E (ギャップミッケ)」を共同開発した。

医師から発達障害と診断を受けた人は国内に48万人以上いるといわれる一方、その特性への理解は進んでいない現状がある。発達障害の特性は他者からはわかりにくいことがあるため、その困りごとの解消に役立つ商品やサービスは少ない。

電通ダイバーシティ・ラボでは、

子どもの発達が気になる467組の家族へのアンケート、6組の家族へのヒアリングを実施。発達に特性のある子ども側と保護者側では、同じひとつの事象に対しても感じ方や考え方にギャップがあることに着目し、それを可視化するツールを開発した。調査で見えてきた家の中の育児におけるギャップを、部屋ごとの場面に分けてマップとカードで提示することで、視覚的にも特性を理解しやすいデザインとした。

電通メディアカルコミュニケーションズは、ツールを活用したワークショップ・研修を通して、社会における発達障害の特性への理解を深め、課題を起点に広く顧客企業や教育機関、支援者とソリューション開発を行っていく。

味の素A G F、退職した元社員を再雇用する新制度

味の素A G Fは、10月1日より「カムバック採用制度」を新設した。育児・介護・配偶者の転勤等の諸事情により本人の就業継続意欲にもかかわらず退職せざるを得なかった従業員や、学業・転職等のキャリアアップのために退職した従業員が、退職後に得た多様な知識・経験・スキルを活かし同社に再び就職できるようにするも

の。自己都合退職した勤続1年以上の正社員が対象。

同制度は、退職事由にかかわらず、退職後の外部経験を一つのキャリアと捉え、新しい価値として受け入れることでイノベーション創出につなげることを目的としている。また、現社員にとっても働き方の選択肢が増えることにより、ライフステージの変化が起きた際にも安心して働くことが可能となる。

甲州タクシー、軽自動車E V タクシーの運行を開始

富士急行グループの甲州タクシー（山梨県甲州市）は、11月6日から軽自動車E V タクシーの運行を開始した。合わせて、軽自動車の特性を活かすことで、女性乗務員の獲得を強化する。

タクシー業界の乗務員不足が社会問題化しており、特に地方部では乗務員の高齢化や、タクシー会社の廃業も少なくない。課題解決のために同社は、タクシー車両の安全基準に適合した軽自動車E V タクシー（日産自動車「サクラ」）を2台導入し、女性のパート運転手2名も新たに採用した。主に市内の病院で待機をし、電話で依頼を受けた通院や買い物目的の地元客を送迎する。運賃は普通車料金

と同額。

小回りの利く軽自動車が生活に密着した身近な車両であり、多くの女性が抵抗感なく運転できることや、タクシー乗務がパート勤務でできる仕事であることをアピールすること、女性乗務員を積極的に採用していく。

鎌倉・材木座でコンポストを通じた地域交流の試み

神奈川県鎌倉市の材木座にあるコワーキングオフィス「はつひの」は、2023年10月から「材木座コミュニティコンポストプロジェクト」を開始した。同プロジェクトは、生ごみなどを発酵・分解して堆肥化するコンポストを通じて、「はつひの」で働く人や関係者が町の人と共に循環をつくり、コミュニティの交流機会を増やすことを目的としている。

第1弾となるコンポストは、みずコンポスト「m i m i c o m」（みみこん）。直径30センチほどの蒸し器の廃材を利用し、近隣住民が持ち寄った生ごみなどをみみずが分解してくれた堆肥を、提携先の畑など利用者に提供する。また、鎌倉に住む人と働く人を対象に、このコミュニティコンポストへの参加者の募集を行っている。

CSRに取り組むお客様の 印刷製品づくりを応援する それがCSRマークです。

CSRに取り組む印刷会社に仕事を頼みたい。
印刷製品にCSRに取り組んでいる**マーク**をつけ
たい。

でも、どこに発注すればよいかわからない。

そんな要望にお応えするのが

CSRマークです。

CSRマークは、印刷業界のCSR基準を達成し
た印刷会社がつけることができる信頼のマーク
です。

〈特徴〉

- 公正で信頼できる制度
- CSR研究の第一人者である横浜市立大
学の影山教授監修のもと設計された基準
を達成した印刷会社を客観的に審査
- 横浜市立大学CSRセンターが審査を実
施し外部の有識者で構成される認定委員
会で判定
- 基準はすべてホームページで公開
- 認定企業に発注すれば、無料でCSRマー
クの使用が可能
- CSRマークは印刷会社のCSRの取り組
み度合いにより3種類
- 認定番号管理により社会的信頼性を確保

■問い合わせ先

全日本印刷工業組合連合会CSR認定事務局
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8
TEL.03-3552-4571 FAX.03-3552-7727

<http://www.aj-pia.or.jp/>



印刷製品へのCSRマーク表示例

認定企業一覧 (2023年10月現在)

スリースター認定 (13社)			
宮城	株式会社ユーメディア	愛知	新日本印刷株式会社
福島	株式会社日進堂印刷所		株式会社マルフ
千葉	株式会社太陽堂印刷所	石川	株式会社笠間製本印刷
神奈川	株式会社ココロバ	滋賀	アインス株式会社
	株式会社大川印刷	広島	ユニバーサルポストグループ
東京	六三グループ	福岡	株式会社博多印刷
		熊本	株式会社啓文社
ツースター認定 (9社)			
神奈川	株式会社野毛印刷社	香川	株式会社ミヤプロ
長野	亜細亜印刷株式会社	愛媛	愛和印刷株式会社
東京	文唱堂印刷株式会社	福岡	株式会社ミドリ印刷
京都	南アドバンク		株式会社丸信
大阪	株式会社美生社		
ワンスター認定 (119社)			
北海道	株式会社ヒロミ産業	三重	伊藤印刷株式会社
	株式会社アイテックサプライ		株式会社岐阜文芸社
	株式会社正文舎	岐阜	ヨツバシ株式会社
	北陽ビジネスフォーム株式会社		協同印刷株式会社
宮城	株式会社ホクラミ		第一共同印刷株式会社
	株式会社東北プリント	富山	朝日印刷株式会社
秋田	秋田印刷製本株式会社		株式会社ニッポー
	株式会社東海林印刷		ヨシダ印刷株式会社
山形	株式会社青葉堂印刷	石川	株式会社ダイトクコーポレーション
	株式会社精英堂印刷		株式会社山越
	株式会社藤庄印刷		株式会社太洋堂
群馬	株式会社銀星社印刷所	京都	株式会社ムーブ
茨城	大富印刷株式会社		株式会社やまとカーボン社
栃木	足利印刷株式会社		相互印刷株式会社
	株式会社井上総合印刷		相互ビジネスフォーム株式会社
埼玉	株式会社アサヒコミュニケーションズ		株式会社ソーエイ
千葉	株式会社弘報社		株式会社一心社
新潟	株式会社第一印刷所		レスター工業株式会社
	株式会社プレスメディア		有限会社サンエスタイル印刷
山梨	相互印刷株式会社		鈴木美術印刷株式会社
	日本レーベル印刷株式会社	大阪	トキワ印刷株式会社
静岡	株式会社中央パッケージング		株式会社シーズクリエイト
	池田印刷株式会社		岡本印刷株式会社
	株式会社賢工製版		阪本印刷株式会社
	システム印刷株式会社		株式会社新聞印刷
	株式会社ウエマツ		大興印刷株式会社
	株式会社白橋		赤木印刷株式会社
	株式会社ソウブン・ドットコム		船場印刷株式会社
	株式会社アドピア	兵庫	丸山印刷株式会社
	荏原印刷株式会社		兵田印刷工業株式会社
	株式会社光舎印刷		大和出版印刷株式会社
	弘和印刷株式会社		株式会社天理時報社
	滝澤新聞印刷株式会社	奈良	株式会社アイブリコム
	株式会社木元省美堂		共同精版印刷株式会社
	株式会社長英		株式会社明新社
	株式会社TONEGAWA	和歌山	株式会社マージネット
	株式会社エス・ワイ・エス		白光印刷株式会社
東京	広研印刷株式会社	岡山	コーホク印刷株式会社
	株式会社太陽堂封筒		株式会社中本店
	株式会社プライズコミュニケーション		株式会社ニシキプリント
	株式会社光邦	広島	瀬戸内海印刷株式会社
	音羽印刷株式会社		株式会社ポップジャパン
	株式会社ナカニワ印刷		株式会社アドブレックス
	株式会社研文社	愛媛	株式会社明朗社
	株式会社美創		西日本ビジネス印刷株式会社
	株式会社オフセット岩村		アド印刷株式会社
	株式会社エイジ		株式会社築上印刷
	株式会社久栄社	福岡	株式会社伸和
	東京平版株式会社		泰平印刷株式会社
	セントラル印刷株式会社		井上紙工印刷株式会社
	第一資料印刷株式会社		ダイヤモンド秀巧社印刷株式会社
	株式会社共栄メディア		株式会社池田紙器工業
	山口証券印刷グループ	熊本	株式会社九州クラフト工業
	木野瀬印刷株式会社		ホープ印刷株式会社
	半田中央印刷株式会社	宮崎	株式会社文昌堂
	豊橋合同印刷株式会社		株式会社鹿児島新生社印刷
	株式会社愛知印刷工業	鹿児島	株式会社新生社印刷
	株式会社荒川印刷	組合員外	佐藤印刷株式会社
	大信印刷株式会社		
	株式会社クイックス		
	サクラグループ		

※都道府県内は認定番号順